

施策評価シート(令和2年度)

(基本施策の大綱) 3. 交通拠点性を生かした都市活力の向上

(基本施策) (5) 広域的な交通拠点性の強化

(評価担当者)

総合政策部長 山本 伸治

基本施策が目指す姿

市内外の人が、高速交通ネットワークを活用し、広域的な交流・連携を行っています。

関連する分野別計画

成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	R1	R2	R3		
1	リニア中央新幹線亀山駅整備 基金残高	億円	15.5090	H27	16.5106	17.0175	17.5212	18.0232		20
2										
3										
4										
5										

市民アンケート調査

項目		現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1	高速道路網が整備されている	重要度 1.05	1.07	1.05	高速道路網の整備に対する市民の満足度が向上している。これは、前回(平成30年度)の市民アンケート調査後、新名神高速道路の県内区間全線開通(平成31年3月)や、亀山西JCTの名古屋・伊勢ランプウェイが完成(令和元年12月)したことで、東名阪自動車道とのダブルネットワーク化や慢性化していた渋滞緩和が図れたことなど、高速道路網の強化が図れたことによるものと考えられる。
		満足度 0.63	0.63	0.75	
2		重要度			
		満足度			
3		重要度			
		満足度			
4		重要度			
		満足度			
5		重要度			
		満足度			

総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
<b>A</b> 順調に進んでいる	「リニア中央新幹線市内停車駅の誘致の推進」については、新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、リニア亀山市民会議を通じた取組や県期成同盟会等と連携を図ることで、官民一体となって早期全線開業と市内停車駅誘致の取組を推進することができた。こうした中、令和3年1月には、県期成同盟会において、本市が県内唯一のリニア県内駅位置候補に決定され、四半世紀以上にも及ぶ本市のリニア誘致が新たな局面を迎えることとなった。また、リニア亀山駅整備基金の残高が積立目標額(20億円)の9割に達し、市内停車駅誘致後の周辺整備に向けた財源確保が図れた。一方、「広域道路網の強化」については、期成同盟会等を通じた要望活動により、令和3年2月に県より地域高規格道路「鈴鹿亀山道路」の都市計画決定が行われ、建設に向け大きな節目を迎えた。
反省点・課題	
「リニア中央新幹線市内停車駅の誘致の推進」については、本市が県期成同盟会においてリニア県内駅位置候補に決定されたことを受け、事業主体であるJR東海はもとより、先行開業区間の関係自治体の動向を注視しつつ、県等との連携を一層強化するとともに、本市における駅候補地案やリニア駅を生かしたまちづくりについて、早期に調査検討を進めていく必要がある。また、リニア亀山市民会議を通じた市民機運の醸成を図る取組を強化するとともに、会員拡大を図っていく必要がある。一方、「広域道路網の強化」については、鈴鹿亀山道路や国道1号亀山バイパスの4車線化、国道1号関バイパスの早期実現に向け、関係自治体等との連携を図り継続的な要望活動を展開していく必要がある。	

今後の展開方針

「リニア中央新幹線市内停車駅の誘致の推進」については、リニア市内停車駅誘致が新たな局面を迎えたことから、これを好機と捉えた中で、事業主体が概略駅位置を公表する時期を見据えながら、県期成同盟会との連絡を密にし、本市における駅候補地案やリニア駅を生かしたまちづくりについて調査検討を進めていく。加えて、リニア亀山市民会議への活動支援を通じて、新型コロナウイルス感染症の感染動向を踏まえつつ、市民機運の醸成に繋がる取組を積極的に展開するとともに、様々な機会を通じて当市民会議への新規加入を呼びかけていく。一方、「広域道路網の強化」については、鈴鹿亀山道路や国道1号亀山バイパスの4車線化、国道1号関バイパスについて、県期成同盟会等を通じた要望活動を継続的に進めていく。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向		リニア中央新幹線市内停車駅の誘致の推進					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A	活動	新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、リニア中央新幹線の早期全線開業と市内停車駅誘致に向けた機運醸成を図るため、リニア亀山市民会議の活動を支援することで、中央要望、JR亀山駅前における大型PR看板の設置や会報の全戸配布などのPR活動を展開した。また、リニア亀山駅整備基金の計画的な積立てを行い、当該基金残高を約18億円とした。		評価	県の期成同盟会等との連携やリニア亀山市民会議における長年に亘る継続した取組により、令和3年1月には、県期成同盟会において、本市が県下唯一となるリニア県内駅位置候補に決定され、リニア誘致が新たな局面を迎えるに至った。また、リニア亀山駅整備基金の積立額が目標額20億円の9割に達し、駅周辺整備の財源確保を計画的に進められている。		
		順調に進んでいる					
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17066	リニア中央新幹線整備促進事業		主	1,395 / 1,386	B	A
	17067	リニア中央新幹線亀山駅整備基金積立事業		主	50,200 / 50,200	A	A
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向		広域道路網の強化					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	新名神高速道路建設促進期成同盟会、一般国道1号関バイパス建設促進期成同盟会、鈴鹿亀山道路建設促進期成同盟会を通じ、関係市町及び関係者とともに、国・県に対して、要望活動を行った。		評価	県により令和3年2月に地域高規格道路「鈴鹿亀山道路」の都市計画決定が行われるなど、広域道路網の整備促進に繋げることができた。一方で、国道1号亀山バイパスの4車線化や関バイパスについては、具体的な整備推進が図られていない。		
		まずは進んでいる					
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
					/		
					/		
事業以外の取組	内容					活動	成果
	新名神建設促進期成同盟会、関バイパス建設促進同盟会、鈴鹿亀山道路建設促進同盟会要望活動等					B	B